

第8回宮代町総合計画審議会議事録

1 開催日時

令和2年3月26日（木）午後7時00分～午後8時40分

2 開催場所

宮代町役場 202 会議室

3 出席者

（委員）

吉澤久美子委員、並木誠委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、折原正英委員、
佐々木誠委員（会長）、保科寧子委員、高津絵里委員、八木橋孝雄委員、難波悠委員、
鈴木和子委員、小林俊介委員、松山仁委員

（欠席）なし

（事務局）

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

（関係課）

石塚まちづくり建設課長、島村主査、高橋主査

（コンサル）

牧野氏、菊地氏

4 次第

1 開会

2 フォーラムの延期と実施方法について（資料1、3）

3 総合計画基本構想（素案）について（資料2、3）

4 土地利用構想と目標人口について（資料4）

5 閉会

5 議事（要旨）

（１）開会

（２）フォーラムの延期と実施方法について

フォーラムの延期と実施方法について、事務局より資料 1 及び資料 3 に基づき説明を行った。委員からは以下のような質問や意見・提言があった。

佐々木委員 一般参加者への広報について、6月の広報に案内を掲載し6月13日開催では周知期間が短い。5月の広報に掲載したほうがよいのではないか。

事務局 5月の広報に掲載するとなると、4月20日頃には入稿しなければならない。その後1か月の間に状況がどう変化するか読みにくい部分があるため、5月20日頃までに状況をみて判断し、6月の広報に掲載することとした。

難波委員 5月の広報で参加者の募集だけはしておいて、最終的な判断は6月に行うという形でもよいのではないか。

事務局 それでは5月の広報で告知した上で、6月にも開催するかどうかも含め情報を掲載することにしたい。

佐々木会長 フォーラムについて、職員の参加に関する意見が出ている。

松山委員 庁内の職員で構成する策定委員会があると思うが、どのような検討がなされているのかみえない。策定委員会メンバーがフォーラムに参加してくれば、どのような検討が進められているか知る機会になるのではないか。町ではどのような取り組みや検討が進んでいるかなど、無駄な議論を省略する意味でも、職員にもワークショップに参加してもらいたい。

事務局 あくまで生活者の視点、あるいは行政以上に様々なことに精通している方の視点など、住民としての意見を得ることが主眼であり、行政の話を書く会にはしたくない。職員が入るとしても住民と同じ立場での参加が望ましいと考える。

佐々木会長 フォーラムの目的は、市民に対する説明と不足している視点やアイデア等を得ることとしている。行政の中の話を知りたいのであれば、審議会に参加していただく方がよいかもしれない。SMCWのメンバーが参加するのであれば、一般職員の意識啓発につながると思うが。

折原委員 最終的に計画や施策・事業を決めていくのは行政になるが、それらを決める前の段階から職員が入ってしまうと話の内容が行政寄りになってしまう恐れはある。個人的には職員は入れないほうがよいと思う。

松山委員 市民が何をどう考えているのか、一般の職員の方にも知ってもらい機会になると思う。

事務局 SMCWに参加した職員は、ワークショップで市民の声を直接聞くことができた。いただいた意見はその後の庁内における事業検討にも活かされている。

る。フォーラムも SMCW と同様に、市民の意見に直接触れる場として、職員が市民と同じ立場で参加することは検討したい。

佐々木会長 フォーラムのやり方について、審議会の委員自体が基本構想の策定経緯や素案についてもっとよく理解していないと説明できないとあるがいかがか。

秋山委員 ワールドカフェ方式でテーブルのホストは委員が務めるとのことだが、例えば将来都市像がどういう経緯で決まったのか聞かれた場合、委員ごとに認識がバラバラでは参加者が混乱するのではないか。また、必ずしも検討内容を全て明確に覚えているわけではないし、戦略の詳細な部分について聞かれた時に、説明しきれない部分が出てきてしまった場合どうするか。

事務局 今回の意見交換は質疑応答の場ではなく、計画をつくりあげていくプロセスの一つであるということに参加者に認識していただけるよう、ルールを工夫したい。第1部できるだけ丁寧に説明し、疑問点を解消した上で第2部に進んでいくことも重要と考える。できるだけホストに負担がかからないようにしたい。

高津委員
事務局 困った時には事務局に助けてもらえるような体制があると安心である。
元々ワールドカフェは、他の人の意見を批判しない、その場で出た意見は尊重されるというルールがある。どの意見が正しい、正しくないということではなく、出てくる意見をまずは受け止めていただければよいと思う。ただし、おっしゃる通りヘルプが必要な場合は職員が助けに入れるようにしたい。

佐々木会長 策定経緯に関しては質疑応答の時間があってもよいのではないか。

折原委員 ホストの役割は、策定経緯など何か説明することではなく、参加者からどんな意見が出たのかをまとめて事務局に伝えることである。

高津委員 ホストはラウンドごとに交代せず、最後まで委員が務めるということか。

事務局 その予定である。

佐々木会長 時間的に難しいかもしれないが、質疑応答の時間はとらなくてよいか。

事務局 個々の方の質問に答えるというよりは、参加者同士の意見交換の中で、触発されて出てくる新たな意見やアイデアを得ることがフォーラムの目的である。

(3) 総合計画基本構想（素案）について

総合計画基本構想（素案）について、事務局より資料2及び資料3に基づき説明を行った。委員からは以下のような質問や意見・提言があった。

佐々木会長 将来都市像の「都市像」と「まち」の使い方について意見が出されているがいかがか。

- 秋山委員 まちの良さとして「都市的な要素と田園的な要素が混在」とあるにもかかわらず、将来「都市像」でよいのか。「都市」を目指しているのか。
- 事務局 必ずしも「将来都市像」でなければならない理由はないので、別の表現についても検討したい。
- 佐々木会長 平たく言うと「未来の宮代の姿」か。
- 並木委員 確かに「都市像」というと近未来のような、ハードルが高い印象を受ける。もう少し柔らかいイメージの言葉でもよいと思う。
- 折原委員 「まちの未来像」などでもよいのではないか。
- 難波委員 または「宮代のまちの未来像」でも。
- 佐々木会長 将来都市像の中の「ムラ気質」や文章の締め方にも意見が出ているがいかがか。細かい表現の部分は今後事務局で検討していただきたい。戦略E「日々の生活のアクセシ性を高める」への指摘についてはいかがか。
- 高津委員 高齢者や子育て世代に限定するのではなく、車がない若い人や単身世帯向けの要素も加えれば移住にもつながるのではないか。
- 難波委員 高齢者の移動手段というと、福祉タクシーのようなイメージで若い人は使いづらそうに感じるかもしれない。
- 事務局 戦略Eは修正する。
- 佐々木会長 戦略G「地域に人々の集まる“キッカケ”を生み出す」に対する指摘についていかがか。
- 高津委員 何かやってみたいと思っても、声のあげ方がわからない。役場に行っても担当窓口がどこかわかりにくい。まずは最初に相談できる窓口について記載があれば、何かやってみようという人の背中を押せるのではないか。
- 佐々木会長 声のあげ方とは、何かの企画を立ち上げようとする場合のことか。
- 高津委員 もっと前の段階。困っていることの解決方法がわからず悩んでいる人がいたとして、若い人なら引っ越してしまうケースもあるかもしれない。仲間を探す方法を聞きに行く場所、それぞれが抱える想いを相談できる場所を書いておくことができれば。行政の中に窓口があるのであれば、気軽に相談にきてください、と書いていただければいいし、他で探す必要があるのならアドバイスをもらえる場所など、統一した窓口・場などがあるとよい。
- 事務局 市民活動とまではいかないまでも、小さな取組みをはじめようとした時に、どんな集まりがあるのかすぐに知ることができる体制ということか。
- 高津委員 高齢者の場合はサロンがあると思うが、子育てしながら働いている世代なども町内で集う場があるとよい。やりたい人は既にカフェを作ったりしている人もいると思うが、そこまでいかなくとも小さな集まりの情報を発信してくれるだけでもよいと思う。
- 佐々木会長 そういったものを行政がやるべきなのか、市民が自発的にNPOを立ち上げて事業化する方法もあると思う。
- 事務局 現在公民館は無のだが、公民館や地区センターに職員を配置し、地域の

方の声を聞き、地域の方が自然と集まる場としていくことを検討している。いただいた意見も参考に戦略や事業に反映していきたい。

事務局 進修館で地域の活動は発信しているつもりだが、まだまだ情報が得にくいということであれば PR 不足の部分はあると思われる。戦略に基づき、地域の居場所づくりについて何をやっていくのか、もう少し具体的に伝えられるようにしたい。

松山委員 進修館は和戸、姫宮の人にはあまり関係ない。地域に行政の出張所、出先の拠点を作って行政の相談窓口となるようにしていくべきではないか。

佐々木会長 具体的な事業の話と、戦略に何を書くかという問題がある。今の意見を戦略 G にどう反映するか。

高津委員 戦略 G で色々と投げかけてくれてはいると思うが、大きな括りすぎて具体的にどうなるのかわからない。例えばちょっとした声のあげ方について、こんな風に声をあげてみてはどうですか、と一言書いてもらえるとありがたい。市民全員で考えていくんだ、ということが伝わるとよい。

事務局 今まで参加していなかった人も参加できるような場が身近にあれば、ということかと思う。表現については検討させていただく。

八木橋委員 戦略 G の表題は、「人々の集まる」より「人々が集まる」の方がよい。

事務局 指摘の通り修正する。

吉澤委員 コンセプト 4 はとても重要な部分と思う。その意味でも期待を込めて戦略 K について意見を出させていただいた。SMCW を受けての検討内容や策定委員会など、それぞれの情報や検討内容があまり共有できていないと感じる。総合計画を進めていくにあたり、継続的に議論できる協議の場を位置づけてほしい。

難波委員 戦略 K の “ ” で囲んだ要素と並列させて、“継続的な管理をする仕組み”、“課題を共有する場”、“進捗管理の場”などのキーワードを追加してはどうか。

鈴木委員 今後具体的な事業が位置づけられていくと思うが、出来上がった計画が皆さんの心にしみわたるようなものになればよい。

佐々木会長 事前に出された意見については一通り触れたがその他何かあれば。

難波委員 概念図の下に加えていただいた説明について、「系統的」とあるが、「縦割り」などの方がわかりやすいのでは。

事務局 階層的ではどうか。

難波委員 階層的だとその前の重層的と被る気がする。

松山委員 アンケート調査の結果をみると、どのようなまちを目指すべきかという質問で、「子育て環境の整備されたまち」、「福祉の充実したまち」の2つが上位にあげられており、これらが市民の一番の関心事である。フォーラムのワールドカフェでは福祉や子育てをテーマに取り上げてほしい。

秋山委員 アンケートの回答者 1,193 人のうち、37.5%が 70 歳以上の方でありこの結果になるのはある意味当然ともいえる。

松山委員 元々人口構成を考えれば半分は 60 歳以上であり、宮代町は高齢者の町ともいえる。若い人に来てもらいたいのであれば、安心して住める老後があるまちも魅力になると思う。

佐々木会長 年齢別で見ると、若い世代でレジャーのまちを望む声も多いようである。いただいた意見も参考にしつつテーマを絞っていきたい。

(4) 土地利用構想と目標人口について

土地利用構想と目標人口について、事務局より資料 4 に基づき説明を行った。委員からは以下のような質問や意見・提言があった。

折原委員 山崎の交差点付近で土地利用検討エリアが伸びたと説明があったが、これは白地地域が拡大されるという解釈でよいのか。

事務局 そのような前提ではない。あくまで都市計画マスタープランとして、道路付けの利便性の向上、将来的なポテンシャルの向上のために拡大させていただいている。農振地域の調整等も含め、土地利用検討エリアに設定している。

折原委員 農業振興計画も連動する形になると思うが、それも伴って目標人口が 34,000 人という説明になるのかと思ったが、そうではないのか。

事務局 住居系の拡大は県から認められておらず、このエリアについても住居系拡大は考えられないエリアとなっている。人口が張り付くというよりは、仮に土地利用の転換があるとしても、住居系での拡大ではなく別の利用方法になると考えている。人口の維持に向けては、あくまでも既存の市街化区域内の未利用地に魅力を持たせて活用していく、または増加が予想される空き家の活用などで人口を維持していきたいという前提である。

折原委員 総合計画は町の中心の計画であり、農業振興計画等との整合性が取れていないとどうなのかというところが気になった。市街化区域の拡大については、相続税額の評価額や算定方法が変更され、減る可能性もあるが、それも含めて目標人口 34,000 人の説明がつかうと思うが、この部分は違うということか。

事務局 当然本来的には整合性が取れていないといけませんが、農業振興地域整備計画については、場合によっては変更していくというスタンスになると思う。

難波委員 和戸周辺は、元々中心市街地だったところが、一部土地利用検討エリアとなっており、これは戦略 D「歩きたくなる『まちなか』をつくる」のまちなか部分が減っているようなイメージである。駅周辺のエリアを今後どうしていくかは、今後の町のイメージやブランドにとっては非常に重要だと思うが、この審議会ではそういったエリアをどのように利用していくかについてはあまり議論されていなかった。また、戦略 D、E、J などでは、そういった部分を拾いきれていないような気がする。町の良さを出してい

くような方向性がどこかにあってもよいのではないか。

事務局 元々和戸駅周辺は区画整理と西口改札も含めて将来的な計画を持っていたが、人口減少期における県の都市計画の方針で、町が含まれる圏央道エリアは市街化区域の拡大の中で住居系の拡大は認めないことになっている。和戸駅西口は、元々新たな住居系での市街化区域の拡大を目指していたが、計画を転換せざるを得なかったという経緯がある。ただし、ここは駅に隣接しているエリアであり、町としてもポテンシャルは高いと考えており、何とか将来的に土地利用転換を目指したいという考えはある。現状、中途半端な形になってしまっているのは町としても心苦しいが、土地利用の検討エリアとして何かしらの可能性を見出したいと考えている。

難波委員 戦略Dの文末に、「居心地の良いまちなか（市街地）を創ろう」とあるが、この表現だと厳密に言えば土地利用構想図のピンクの部分しか対象に含まれないことになり、和戸駅西口の土地利用検討ゾーンが対象から外れてしまう。青の土地利用検討ゾーンは色々な意味でポテンシャルもあるという認識であれば、戦略Dはそれをくみ取れる表現にすべきではないか。

佐々木会長 農の風景のあるところと駅周辺の市街地の中間にあたるところに関する言及がないということか。具体的な対応としては、戦略Dの書き方を修正すべきなのか、別の項目を立てた方がよいのか。

難波委員 まちなか創るのはいいと思うが、現状まちなかという市街地の話しかしておらず、青のゾーンの検討は含まれていないことになる。アクセシビリティを高めるという話でもないし、いわゆる遊休スペースでもない気がする。

佐々木会長 戦略Aに当てはまる気もするが。

事務局 どのように表現すべきか検討させていただく。

佐々木会長 目標人口について、将来的には人口減少が想定される中、現状を維持していこうということである。気になったのは、市街地に向けた戦略として53haが未利用の市街化区域ということだが、具体的にどうしていくのか都市計画審議会ではどういった考え方なのか。

関係課 前提として、全国的に人口が減少している中で、人の奪い合いが生じており、少しでもまちの魅力を高めて内外にPRし、人口を獲得していく必要がある。町として、3つの駅を中心になるべくコンパクトに人口の集約を図っていこうというのが都市計画の考え方である。その中で、未利用となっているエリアをどう活用していくのか。空き家の対策、また、未利用の農地をどうするかが大きな課題である。

佐々木会長 未利用の農地をどのように活用するかという議論がされているということか。

関係課 宮代は町なので市街化区域内農地の宅地並み課税ができない。平成23年から、せめて都市計画税をいただきましょうということで、固定資産税に合わせて市街化区域の農地に対してお願いしたところである。しかしながら、市街化区域の農地の活用はなかなか進んでいないのが現状である。

また、農業の後継者が減少しており、多くの農地がアパートになってしまっているが、今後はできれば戸建住宅で定住人口を増していけるような施策を検討していきたいと考えている。

佐々木会長 目標人口が現状維持であるにもかかわらず、未利用地を開発してしまうと空き家が増えるかもしれない、難しいところではある。先ほどコンパクトに人口を集約していくという話があったが、駅から離れたコンパクトの中に入らない人たちについてどうするのか、交通に関して都市計画審議会では何か議論されているのか。

関係課 総合計画の方が上位計画であり、都市計画では景観やまちづくりの部分を担っている。交通についても総合計画で示された方向性に基づいて具体的に検討していくことになる。都市計画マスタープランには、循環バスやデマンドタクシーなどの交通に関する内容も入れていくことにはなるが、都市計画道路や東武動物公園駅周辺の整備に関することがメインになってくる。

事務局 都市マスタープランの計画期間が20年であるのに対し、総合計画は10年。時間軸の違いはあるが、目指している方向性は同じである。

(5) 閉会

以上